



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

「そば打ち体験会」を開催

7月24日(土) 午前10時から、スタッフ家族が講師を務め、「子どもの居場所」を会場に「そば打ち体験会」を行いました。

参加者は「なんとなくのにお」の居場所に関わる子どもたちと家族、毎月開催している「茶話会」に関わる家族、指定特定相談支援事業所「さくらそう」に関わる家族です。これらのメンバー15名(子ども7名、大人8名)が一堂に会した初めての企画でした。子どもたちは、すぐにゲームなどの話題で意気投合し、保護者は薬味をきざんだりなどの手伝いを通じて話が弾みました。

実際のそば打ちには、自分でも経験がある大人1名と子どもが3名体験しただけ(見学はいれかわりたちかわりに終わりましたが、打ち立て茹でたてそばに自分の好きなトッピングを選び、おかわりしていた顔には満足そうな笑顔が見られました。少しづつ悩みは違うけれど、交流することで子どもも大人もその人の中に何か生まれるのではないかと考えています。

参加予定だったけど、午前中に起きられなかった…というなんにわらしいエピソードもありました。(N)

今回のイベントは、子どもたちだけでなくお母さんたちにとっても有意義なものでした。初めて知り合ったお母さんたちでしたが、様々な情報交換の場になりました。人が仲良くなる時に、「食を共にすること」は、とても大事な要素です。子どもも大人も笑顔がこぼれるイベントでした。(S)



イラスト：numata



プロの技を見学 ↑
水まわしが難しい… ↓



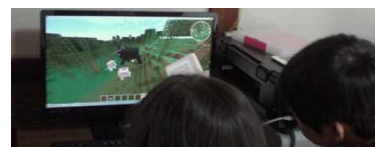
子どもたちが切った
そばがゆであがりまして
できた、できた
さあ食べよう!



わたしたちはお絵かきしながら、
おそばを待ってます →



こちらはなぜか、
マイクラフトに夢中



目次

そば打ち体験	1
「手をつなぐ親の会」 から表彰状	2
活動日誌	3
川むし調査会	3
こんな本はいかが・35	4



居場所のひとこま

「つくって食べよう」、10月は、居場所の畑で採れたジャガイモを細長く切ったところに、チーズやひき肉を加え、ピザのようにしました。スタッフ発案の料理でした。

ジャガイモを切っていた子は「腰が痛い!水が冷たい!」と言っていました。最後までやりきりました。とてもおいしいように食べていました。(N)

栃木県特別支援教育手をつなぐ親の会より表彰

第62回 県大会(佐野・10月28日)にて

「栃木県特別支援教育手をつなぐ親の会」は、『特別な支援が必要な子や親たちの悩みや願いを共に分かちあい、励ましあうという趣旨のもとで発足した会』(大会宣言より)です。第62回を迎える今年度大会において、本会が表彰を受けることになりましたので、代表として大会に参加してきました。

大会プログラムより受賞理由を引用します。「平成16年度から、不登校児童生徒および青年に学習指導や自立支援活動を行うため、学校以外の学びの場を提供している。保護者、保育士、教員経験者、青年などが協力し、子どもの自主性を重んじながら一緒に多様な生き方を探り、引きこもりがちの子も活動をとおして再登校するなどの変容がみられる。また学校や市教委運営の適応指導教室と連携し、個別ケース会議を開催するなど、より有効な支援策になるように努めている」以上は上都賀地区支部会からの推薦文要約とのことです。

当日は大会会場の佐野市「葛生あくどプラザ」に向けて今市を午前9時半に出発。鹿沼を経由し、国道293号線を走り、1時間半のドライブで葛生に到着しました。

控室に案内され、表彰式のリハーサルを行い、その後昼食となりました。食事の間、今回の受賞者、佐藤史恵さん(下都賀地区推薦・壬生町手をつなぐ親の会会長として、事業内容の向上に尽力された)および有限会社・新里教材の蠣崎仁さん(佐野地区推薦・特別支援学級の生徒を職業体験学習に積極的に受け入れ、また通所多機能型事業所のための作業依頼など幅広い支援活動を行っている)と、それぞれの地域での活動の様子などについて話がはずみました。

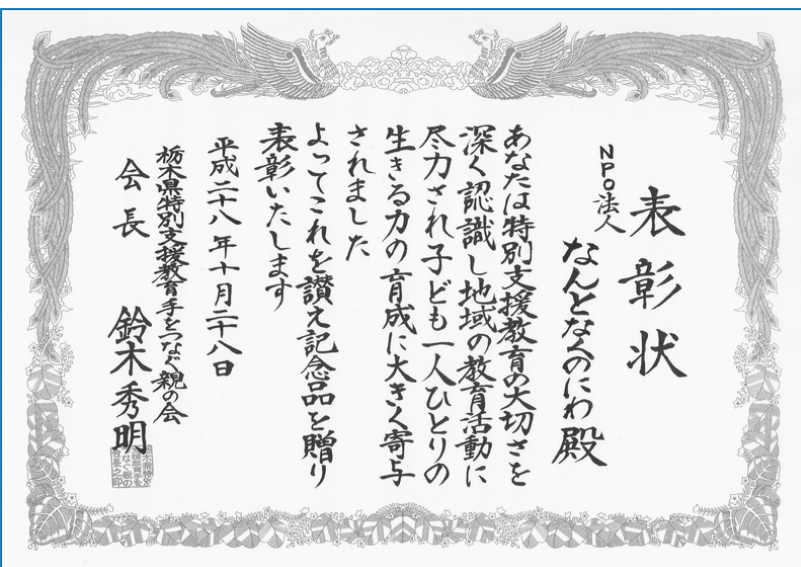
午後1時より式が始まり、無事、賞状と記念品を受け取り、役目を果たすことができました。



大会終了後の研修会は佐野市立常盤中学校の生徒さんたちによる「牧歌舞伎」白波五人男の熱演で始まりました(写真)。その後は発達障がい専門とし、佐野市で小児科医院を開業する柳川悦子副院長さん、および社会福祉法人「とちのみ会」地域支援部部長などとして佐野地区で活動されている、臨床発達心理士の藤原雄一さんの講演がありました。

大会冒頭の会長さんのあいさつの中でも、本年4月よりの「障がい者差別解消法」施行が言及され、栃木県における「障がい者差別対応指針」策定作業への期待が述べられていました。「誰もが相互に人格と個性を尊重し合い支え合い、多様なあり方を認め合える」、いわゆるインクルーシブ教育の理念は文部科学省の事業として昨年より具体化されようとしています。本会の設立趣旨書(2004年10月)にもある、「生き方の多様性、学びの多様性」という言葉が特別支援教育という場でも注目されるようになってきたことをあらためて感じました。いっぽうで、その「多様な場」をたくさん並べ個々に対応するというやり方が、本来の「インクルーシブ(包括)」の方向を向いているのかは、これから繰り返し検討を重ねていかなければならない課題ではないかとも考えます。

最後になりましたが、賞をいただいたことに感謝し、「なんにわ」を支えている多くの会員、スタッフのみなさまとともに、受賞を喜びたいと思います。(手塚)



子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所(日光市平ヶ崎)

日時：毎月第2月曜日(午前10時~12時)

次回の予定はお問い合わせください。

参加費：300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合しましょう。

「一人で悩まず、みんなで!」を合い言葉に。

(Tel: 090-3227-7079)

☆ 活動日誌

- 7月31日(火) 通信「なんとなくのひろば・第44号」発行
- 8月12日(金) 県西圏域障害者相談支援事業者等連絡会(居場所見学)
- 8月25日(木) 鹿沼税務署にて担当者と消費税関連の相談
- 8月27日(土) 放射線/放射能測定ワークショップ・第2回
- 8月27日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
- 8月28日(日) ベリー会: 学習会
- 9月7日(水) 理事会(第73回)
- 9月12日(月) 茶話会(第70回)
- 9月18日(日) ベリー会: 月例会
- 9月21日(水) 発達相談訪問(日光市教育委員会 臨床心理士・帷子先生)
- 9月24日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
- 10月2日(日) 咲らん坊こども教室(第1回)に協力
- 10月15日(土) 川むし調査会(塚崎庸子さん・今市の水を守る市民の会)
- 10月15日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
- 10月25日(火) 市民活動支援センター説明会参加
- 10月28日(金) 栃木県手をつなぐ親の会表彰式(佐野市葛生)
- 10月29日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
- 10月30日(日) ベリー会: 学習会

さくらそう関連の勉強会など

県西圏域障害者相談支援事業者等連絡会

第5回: 8月12日(金) 生活困窮家庭等の支援やインフォーマルな支援について学ぶ

第6回: 9月16日(金) 児童の言葉の発達について

第7回: 10月21日(金) 介護保険について

平成28年度相談支援専門員連絡会(毎月第4水曜日 午後2時より)に参加しています。

8月24日、9月28日、10月26日



上:長畑・西沢川(川むし調査)

下:冷たい水中でも元気なカワゲラ
体長は尾も入れて3cmくらい



川むし調査会

10月15日(土) 長畑・西沢川



アザミのみつを吸うアサギマダラ

5月に「川むしたんけん」を実施した西沢川での2度目の「たんけん」を予定しましたが、子どもたちの参加がなく、今回は大人だけの調査会となりました。

天気: 快晴(気温 14℃、水温 12.5℃)

川幅: 約20m、水面幅: 約7m

(5月の実施場所よりすこし上流)

生物の採取: 川岸

生物採取場所の水深: 5~10cm

川底: 砂、砂礫(れき、花崗岩が多い)

水の濁り: なし・透明、におい: なし きれいな水

水質階級 I:

ヒラタカゲロウ類、カワゲラ類、ヘビトンボ、サワガニ

水質階級 I~II: ヒゲナガトビケラ類

その他の昆虫:

ガガンボ幼虫、オニヤンマヤゴ、

ミヤマカワトンボ(成虫)

蝶: アサギマダラ、ゴマダラ、ミドリヒョウモン、タテハ類

川底の石は大雨に流され、表面が滑らかになっています。そこに1mmほどのカゲロウがへばりついています。低水温でも虫たちは元気です。降雨がなければ来春まで、この場所で成長するでしょう。あざやかな黄色がめだつセイタカアワダチソウに集まる蝶の中に、ゆったり滑空するアサギマダラを見つけました。海をわたり、2000kmを旅する蝶。越冬のため、南へ戻る途中だったのでしょか。(手塚) 資料提供: 塚崎さん(今市の水を守る市民の会)

特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378
電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net
ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



こんな本はいかが？

その 35: 一千一秒物語 稲垣足穂 (新潮文庫)

この作品名をある人に話したら、「松田聖子の？」と言われました。1981年にリリースされた4枚目のアルバム「風立ちぬ」の3曲目が「一千一秒物語」です。タルホの不可思議世界をラブソングに仕立てた作詞家、松本隆の腕前はさすがだと思います。でも、今回のおすすめ本はこの作家によって1923年に書かれたショートショートを含む短編集です。

稲垣足穂(いながきたるほ)、1900年生まれ。どういうわけか宮澤賢治と同年生まれと私はずっと思い込んでいました。(宮澤賢治は1896年生まれ。タルホより4歳年上) 関東大震災の年の作品、「一千一秒物語」のなかにある「お月さまが三角になった話」を少し要約しながら引用してみます。

友人は三角形の(三日月ではない)お月様を見たら自分も三角形になってしまったと言う。「うそだと思うなら…」と引き出しからボールをふたつ取り出す。ひとつはただのボール。ところがもうひとつは「お月様が化けている」らしい。その証拠にふたつのボールを机に転がしてみると、ひとつはどうもならないが、いまひとつは机の表面にごく微かなキズがならんでできた。「これがつまり三角のかどが当たったところだ お月様とは不思議な三角形のものだからね 判るかい」と友人が説明する。

話はもう少し続きますが…これくらいで。さて、この作品が書かれた時代、20世紀初めのヨーロッパではアインシュタインの特殊相対性理論、光子論、ボーアの原子模型などをきっかけに世界認識の大変革が始まっています。原子世界の物理を記述する「量子力学」を作るにはつくったけれど、その解釈はどう考えても経験に矛盾するという事態に物理学者が悩んでいました。生きている確率1/2、死んでいる確率1/2という、有名な「シュレジンガーの猫」を認めるのか否かなど、喧々諤々の議論がなされた頃です。ヒューキや天文学が大好きなタルホは、西欧の自然科学から始まった「物質は波であり粒子である」、「観測とは何か」、「じつはこの世界はぼやけている」、「物理的予測は確率的」などなど、世界観の激変を、この作品に込めたのではないかと思います。宮澤賢治の詩や物語の「有機交流電燈の点滅」にも同じような雰囲気を感じます。私が「同年齢」と決めてしまったのはそんなことが原因なのかもしれません。

「一千一秒」の後に置かれた「黄漠奇聞」も何度も読み返しているお話です。砂漠に白い大理石の都を建設し支配する王の狂気と西空に悠々と輝く三日月の物語。秋の夜長にいかがでしょうか。

「人間はよそ見をする動物である」とはこの作家の言だったか、(記憶があまりまいですが…)ときどき気になって手に取る文庫本です。(手塚)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

正会員：56
賛助会員：19
団体会員：4
入会金はありません。

年会費(一口)
正会員 3,000円
賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円

私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしくお願いします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。



なんとなくのへや

ディープ・ラーニングや人工知能をタイトルに付けた本が売れています。研究者の予算獲得競争が過熱させた現象なのかもしれません■むかし、その原形態の「ニューラルネット」を使ってみたことがあります。はじめにシミュレーションを作って「訓練データ」を生成、ニューラルネットを適当に設定し、そのデータで学習させてから、「実験データ」を処理して結果を得ます。その際「訓練データ」を与えすぎると、本番の実験データ解析時に判断を誤るといった現象が起こります。これを「過学習(オーバーラーニング)」と言い、「適当に学習させる」さじ加減が重要だったりしました。そんな経験から「過学習」は「勉強しすぎは良くない」ことだと思い込んでいました■ところがある日、「正しい解答(反応)ができるようになって、さらに学習させることを過剰学習とよび、重要な点だけに集中できるというプラス効果がある」という記述を見つけました。人間相手の心理学などで「過学習」は別の使われ方をしており、「学習ドリル」の理論的根拠になっているようです。「勉強のやりすぎ」も見る方向で位置付けが変わるものだと感じたエピソードでした。(T)